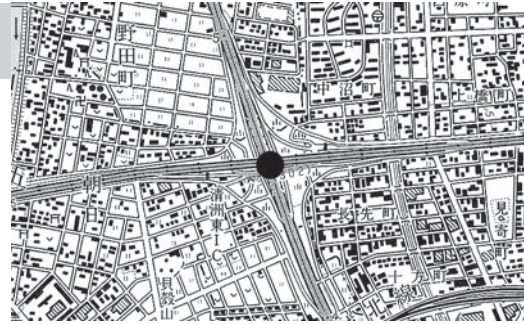


あさひ
朝日遺跡

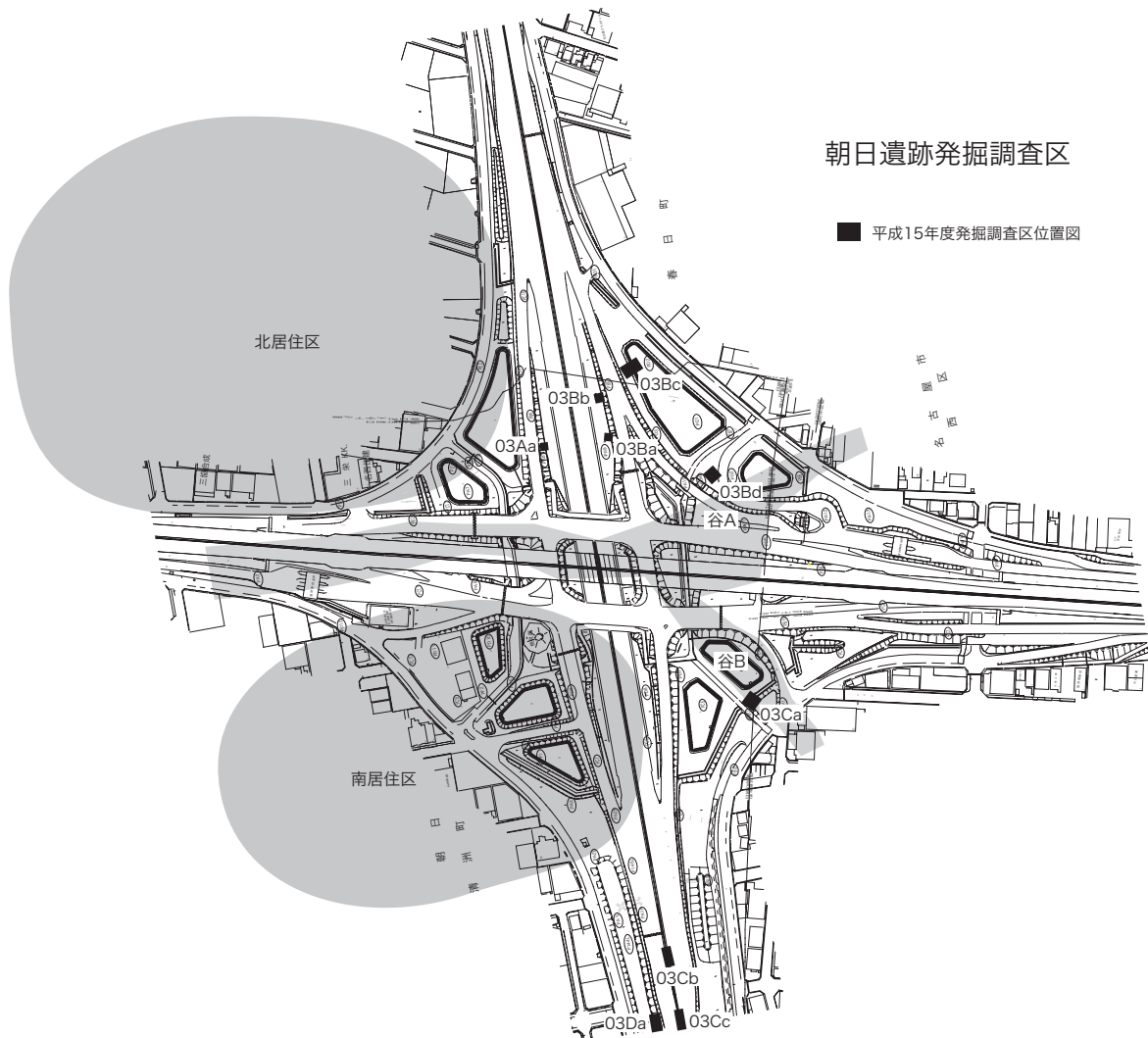
所在地 西春日井郡清洲町・新川町・春日町・名古屋市西区
 調査理由 近畿自動車道清洲 JCT 建設
 県道高速清洲一宮線建設
 調査期間 平成 15 年 4 月～平成 16 年 3 月
 調査面積 1,154 m²
 担当者 石黒立人・池本正明・蔭山誠一



調査地点 (1/2.5 万「清洲」)

調査の経過 名岐道路建設に伴い、朝日遺跡にかかる部分について事前調査を行う必要があった。そこで平成10年度から日本道路公団・名古屋高速道路公社より愛知県教育委員会を通して委託された当埋蔵文化財センターにおいて発掘調査を実施している。今年度の調査は平成10年度年報における朝日遺跡「調査区の表記について」に準じてA区に03Aa 区の1ヶ所、B区に03Ba 区～03Bd 区の4ヶ所、C区に03Ca 区～03Cc の3ヶ所、D区に03Da 区の1ヶ所の併せて9ヶ所の調査区を設定し、1,154 m²を調査した。調査期間は平成15年4月から平成16年3月である。

立地と環境 朝日遺跡は西春日井郡清洲町を中心に同春日町、新川町、名古屋市西区に広がる東海地方屈指の弥生時代集落で、現在では五条川左岸の後背湿地にあたる地域となっている。



朝日遺跡発掘調査区

■ 平成15年度発掘調査区位置図

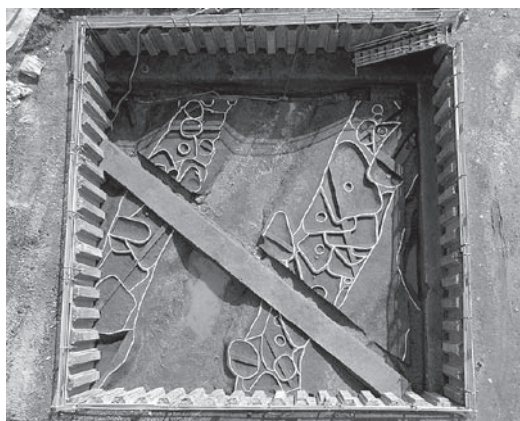
平成 15 年度発掘調査区位置図

調査の概要 03Aa 区と03Ba 区・03Bb 区は弥生時代中期中葉と弥生時代後期に「北居住区」東の環濠帯とされてきた部分にあたる。03Aa 区では弥生時代中期中葉～後葉の周溝をほぼ重複させている方形周溝墓を2基と土坑10基、中世の方形土坑3基を検出した。03Ba 区では弥生時代中期後葉の方形周溝墓1基、弥生時代後期の方形周溝墓1基、弥生時代後期～古墳時代前期の小区画水田跡9筆、弥生時代中期の竪穴住居14棟、土坑約200基、中世の方形土坑1基を検出した。弥生時代中期中葉から後期にかけて連綿と方形周溝墓が作られること、弥生時代後期の周溝が埋まった後に水田が形成されることが明らかになった。03Bb 区では弥生時代中期中葉～後葉の方形周溝墓の周溝1条とほぼ重複する弥生時代中期中葉と弥生時代後期の環濠2条、弥生時代中期前葉～中葉の竪穴住居10棟と土坑35基を確認した。この環濠は内側から4番目の環濠に対応し、弥生時代中期中葉の環濠最下部から逆茂木と思われる丸木が出土した。

03Bc 区と03Bd 区は「北居住区」の環濠帯を挟んで弥生時代中期の墓域が広がる部分で、03Bc 区では弥生時代中期中葉～後葉の方形周溝墓4基、弥生時代中期前葉～中葉の竪穴住居20棟、土坑約100基、中世の方形土坑1基等を検出した。方形周溝墓は竪穴住居等より新しいものと古いものがあり、遺跡の変遷は複雑な過程を経た可能性がある。03Bd 区では「谷A」に併行して流れる弥生時代中期前葉～中葉の溝3条と古墳時代初頭の溝1条、弥生時代中期中葉～後葉の方形周溝墓の周溝7条（5基以上分）、弥生時代中期前葉の竪穴住居38棟、土坑163基を検出した。「谷A」と併行する弥生時代中期の溝はこれまで2条の溝が併行してはしる可能性が指摘されてきたが、微妙に流路が交差し、その他の遺構との変遷過程が存在することから、一時期には1条の溝があったものと思われる。

03Ca 区は「南居住区」から東へ外に出た部分で、弥生時代中期中葉～中期後葉の土坑とそれらより新しい「谷B」と考えられる自然流路が検出され、古墳時代前期の廻間Ⅰ式期前後の流路と松河戸Ⅱ式期前後の流路を確認した。どちらの流路からも多量の自然流木と木製品、木材加工の痕跡と思われる木屑などが出土した。また、その流路の上層では中世の方形土坑や戦国時代～近世の水田遺構を検出した。

03Cb 区では朝日遺跡の南限と考えられる弥生時代中期後葉の溝を1条検出した。03Cb 区南側と03Cc 区では湿地性の堆積が確認され、明確な遺構はなかった。（蔭山誠一）



Bd 区 2 面全景



Ca 区 5 面谷 B